

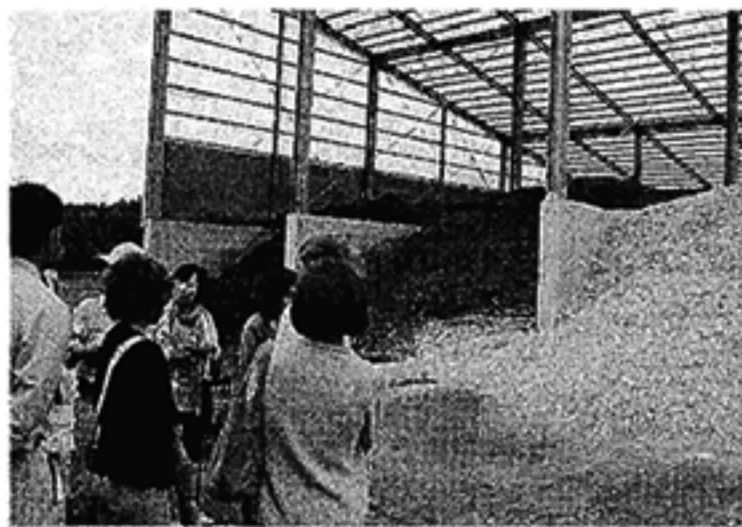
野菜残渣をリサイクル

(公財)有機質資源再生センター主催(協力:主婦連合会環境部)の食品リサイクルサロンは、特別企画として、いつもの主婦連合会議室を飛び出し、植物残渣などを堆肥化・エネルギー化してリサイクル事業を行なっている、農事組合法人「和郷園(千葉県香取市)」の見学会を行いました。

「和郷園」を見学

「和郷園」は約六〇軒の専業農家、冷凍加工センター(さあや、スキッチン)、パックセンター、カットセンター、山田バイオマスプラント、リサイクルセンター、レストラン・直売部門の風土村などから構成されています。

和郷園顧問で、有機質資源再生センター理事で



ります。液体分は山田バイオマスプラントに運ばれ発酵の工程を経て、バイオ消化液肥などの液体肥料がつけられます。ここでは、近隣の酪農家からの牛ふんも受け入れており、四五日かけて、牛ふん堆肥も作られています。それぞれ試行錯誤をくりかえし、最良の肥料が効率よく作れるようになったそうです。スーパーからの野菜残渣にビニールかすなどの異物の混入を防ぐことが大変重要なお話でした。

「和郷園」の野菜の特徴は、科学的な裏付けのある土づくり。年間五〇〇検体にも及ぶ土壌分析が行なわれ、作物・環境への配慮がなされ、肥料・農薬の必要最低限の使用をめざしています。農薬の使用履歴・施肥履歴が生産者毎、圃場毎に管理され、データ化されており、千葉県が定める千

もある阿部邦夫さんに案内していただきました。「和郷園」では、農場で作られた野菜を取引先店舗である冷凍野菜工場・カット野菜工場・都内の契約スーパー・生協等に納入しています。そこから出る約月一〇〇トの野菜残渣を和郷園リサイクルセンターで受け入れ、堆肥化を行ない、組合員の農地に還元され、「自然循環型農業」となっています。

堆肥化の工程は、野菜残渣を破砕機にかけてから始まり、大変細かく裁断した物を固体・液体分離機にかけて、固体分と液体分に分けま

す。固体分は活性白土などを混ぜて発酵させて一四日ほどで野菜堆肥となり、千

葉エコ農産物の承認は、千葉県最大規模となっているそうです。山田バイオマスプラ

トでは、メタンガスの製造もしていますが、これは農林水産省農林技術会議事務局の委託プロジェクト

の研究で、バイオマス燃料車に使われています。プロジェクトは終了しましたが、引き続き利用されています。

当日はあいにくの小雨でしたが、新鮮な野菜を見学会となりました。

ふんだんに使ったビュッフェや直売所のある風土村は大変にきわっており、大きな支持を得ていることがわかりました。これからの首都圏近郊農業の将来性を強く感じた見学会となりました。